

ポレーンシェ…チェルノブイリに思いをよせて

チェルノブイリ救援・中部 事務局から 1991. 2. 7 No. 6

カレンダー作戦に

ご協力ありがとうございました！

総数約1万8千部！でも…

○ カレンダー作戦担当 救援・豊橋より

カレンダーなどの寄付を昨年末から呼び掛けたのに応えて、大量の善意が寄せられました。ありがとうございました。

これらの物資はジトミールでチャリティーバザーにかけられ、「ジトミール・ヴィースニック」が設立した移住基金に充てられる予定です。

遠路はるばるカレンダーをお持ちくださった方、カンパをそっと忍ばせてくださった方、可愛い文房具を送ってくださった13才の女の子、私どもへのやさしいねぎらいの言葉を手紙に添えてくださった多くの方々、ほんとうにありがとうございました。

お寄せいただいたカレンダーのあまりの多さに、持ち込み先になっている岐阜、名古屋、豊橋、島田など各地では、うれしい悲鳴を上げながら梱包作業をしました。みなさんから寄せられたカレンダーや文房具の数は、約1万8千部、りんご箱にして230箱にもなっています。

善意で送ってくださる方の量（なかにはご自分が必要なものまで送っていただいた方もいらっしゃると思いますが、）だけでこうなるのですから、日本全国では一体どれだけのカレンダーが処分されているのか、想像するだけで背筋が寒くなります。森林保護が叫ばれている折り、なんとかしなければいけない問題だと痛感しました。なぜカレンダーや手帳はただでもらえるのでしょうか。結局そのコストは商品やサービスの価格に上乗せされます。それなら本当に欲しいと思うものを必要な分だけ買った方が、自分にとっても環境にとっても有益だと思うのですがいかがでしょうか。そんなふうに社会を変えていくことはできないのでしょうか。

○ 救援・岐阜より

初め、カレンダーが宅配便で送って来た時、「アッ、来た！」と喜びました。そして、ダンボールが、一つ、二つ、三つ…と増えていくたび、新聞っですごいな—と思った。しかし、今となっては、もう、やめてといたい。しかし、送っていただいた人の中には、近所の人に声をかけ集めましたという人達もみえるし、又、会社関係は、あまってしまったからとドサッと送ってくれる。どちらも一生懸命やっていたのだから、なんともいえない気分。しかし、送っていただいた人も、カレンダーは重いので運送代がきつと高くついているはず。それを考えるとやはりありがたいと思い、毎晩カレンダーの整理をした。

自分達だけではこんなにも集める事は、出来なかったのだから…

今、この多くのカレンダーが役にたってほしいという気分でいっぱいです。いや、その前にソ連に無事についてほしいと思う。カレンダーの整理をされた名古屋、豊橋、岐阜、その他いろんな所の皆様、本当に御苦労さまでした！

P. S. なんでカレンダーはこんなにも重いのか！……

さて、各地で梱包されたカレンダーは、ソ連の法律等の関係で、医薬品などの直接的な救援物資として扱えないため、一般の貨物として船で現地へ送ることになりました。ジトミルスキービースニク社の話によると、到着が遅れてもカレンダーそのものの価値は下がることはないそうです。

また今回、救援物資としてこの他に岐阜県八百津町の柴田さん始め有志の方が作られた炒り玄米粉（無農薬）200kgとそして富山からの米90kg（ソ連でも米を食べる習慣があるんだそうですね）を送ります。

また三重県のセントヨゼフ学園の生徒さんがチャリティマラソンによる救援金で白血病の薬（140万相当）を買って寄贈していただきました。その薬も送ります。その生徒さんたちの一部は、今年卒業だそうですね。ご卒業おめでとう！そしてすばらしい思い出をありがとう。

クリスマスカードが 現地で配布されました。

昨年のもさにクリスマスイブの日、新潟空港からクリスマスカード約3千通の他の粉ミルクやビスケット、そして九州で同じように救援活動をしている「チェルノブイリ支援運動・九州」からの ガイガーカウンターやおもちゃなどの救援物資も含め合計約2.5トンが、ソ連に向けて飛び立ちました。

そして、チェルノブイリ救援・中部が、現地の救援受け入れ窓口としているジトミール州の新聞社「ジトミールスキー・ヴィースニク」の編集長ネチポレンコ氏から次のような詳細な受取明細がFAXで届きました。

救援物資はこんなところに贈られました

- (1) ナロジチ中央病院小児病棟へ ベビーフード80kg、ビスケット80個
- (2) ナロジチ、セレッツ村中学校(152人)、幼稚園(72人)へ
ベビーフード80kg、ビスケット80個、ドライミルク70kg、子供の絵本とクリスマスカード。
- (3) オブルジ中央病院 ベビーフード266.5kg、ビスケット56kg、ドライミルク100kg、子供の絵本とクリスマスカード
- (4) オブルジ第一幼稚園 ビスケット4箱(160個)
- (5) コーラステン地区小児授乳施設(1ヶ月~2才) ベビーフード188kg
- (6) コーラステン地区幼稚園
(イスコロチ村幼稚園) ビスケット40個 ドライミルク20kg
子供の絵本とクリスマス・カード
(ウショミール村幼稚園) ビスケット60個 ドライミルク50kg
子供の絵本とクリスマス・カード
(ミルネイ住宅地区幼稚園) ビスケット40個 ドライミルク20kg
子供の絵本とクリスマス・カード
(カリノフカ幼稚園) ビスケット60個 ドライミルク10kg
子供の絵本とクリスマス・カード
- (7) ジトミール市小児甲状腺・放射線治療所
ドライミルク140kg ビスケット149個

(8) 放射線測定器 (ガイガーカウンター)

オーレフスク市中央地区病院 (1台)

オブルチ市衛生検査所 (1台)

ナロジチ市衛生検査所 (1台)

ジトミール市・州保健省 (2台)

(9) ナザリンコ一家 (ジトミール市の子供の多い家族、ヴィースニク社の移住基金でオブルチ汚染地域からジトミール市へ移住した)

ベビーフード 10 kg

以上 1991年1月18日

ジトミールスキー・ヴィスニーク編集長 V・ネチポレンコ

署名 捺印

以上

○ 救援物資の紛失分について

尚、救援・中部から送った171箱の救援物資の内、25箱がモスクワの国際空港で現在行方不明とされています。日本のように送ったものが2、3日で着く流通状況とちがうこと、また昨年12月28日付けのタス通信のニュースによるとソ連の食料危機に伴い、丁度物資を送ったその週だけでオーストリア、ドイツ、フランス、アメリカ、スイス、ベルギー、スリランカからも救援物資が大量に空港に殺到していたことなどから、空港の処理能力を越えていたとも考えられます。また紛失分については、ジトミールヴィースニクからの届け出でジトミール州当局も調査中です。

救援・中部でも日本の外務省やソ連大使館にも調査を申し入れており、次回の物資輸送についても全てが速やかに届くよう強く働きかけることにしています。

○ クリスマスカードを送られた方へ

今後クリスマスカードを受け取った現地の人達から、返事の手紙が送り主の方たちに届く可能性があります。もしロシア語で送られてきたら中部までお送りください。翻訳などできるだけお手伝いをいたします。現在これらの対応のため18名の方のロシア語翻訳協力申し出を頂いています。

声・声・声

(救援に協力して下さった皆さんやソ連からの手紙を紹介させていただきます)

—クリスマスカードに添えて—

はじめまして私は10月27日の岐阜新聞を読んだ者です。私自身 身体障害者ですが そのことで苦しみ自分が不幸だなんて 思ったことは一度もありません。むしろ障害を持って幸せだと感じています。それは私には暖かい家族もいますしそしてすばらしい仲間がいるんです。もし私が健康な人だったらその仲間たちと 恐らく会えなかったでしょう。私のような恵まれた障害者は 世の中にそういるものではないと思っています。だから「チェルノブイリ」の病気で苦しむ子供たちにも この幸せを少しでも分けてあげたいと思い 愛のカードを書きました。ですが何分私は 手が不自由なので 絵なんか子供の時しか書いたことないのです。それでこんな幼児みtainな絵しか書けませんでした。でも心を込め一生懸命に ペンをはしらせました。これでは見てもなんの絵かよく分からないかと思えますので 説明します。二まい書きましたが まず一まいは私の顔で もう一つは海にヨットが浮かび 空には雲がながれカモメも飛んでいます。そして海には 灯台も立っているのです。本当にこんなへたな 絵を書いてとても恥ずかしいのですが 新聞社の皆さんどうか宜しく願いいたします。

*田*子

(事務局注：絵は紙面の都合で載せられませんでした。絵はロシア語に翻訳したこの文章を添えてFAXで現地に送ります。)

—坂東さんと渡辺さんが昨年夏に現地を訪れた際に訪ねたコルジェさん一家からの手紙が届きました(抜粋のみ掲載)—

—いただいたきれいな食料の半分以上は、親戚や小さい子供の乳児を持つ知り合いの家族に分けました。そしてあなた達から汚染地域で住む人のためのアドバイスを受けたことについても皆に教えました。皆から感謝の言葉を受けました。そして、その感謝を私からも、今、皆さんにお伝えしたいと思います。

私達の小さなマリンという町を日本の方（坂東さんと渡辺さんのこと）が訪問され、町を感激させました。私は、皆の反応を見る限り、それを確信しています。私自身は、日本という国を勉強することになりました。伝統や習慣や働き者の国民性のことを。日本は世界文明の先進国として歩んでいます。残念なことに、私の知りたいテーマについて文献があまりみつかりませんでした。しかし、ここでたちどまらないことを決心しています。

（略）

坂東、戸村、渡辺さん、尊敬する人々へチェルノブイリ救援・中部の優しい皆さんへ 1991年 お正月 心からあたたかい気持ちをこめて、おめでとうございます。皆さんや皆さんの子供達のますますのご健康を祈ります。そして個人的なことや社会的運動には大きな成果がありますよう祈っています。人間の大きな幸せ、新年のすべての願いがかないますように。
コルジェー家より

チェルノブイリのその後

～海外ニュースとじこみ帳から～

（以下2件はザ・デイリーテレグラフの記事要約）

○羊肉の出荷制限つづく（イギリス）

チェルノブイリの放射能で汚染された羊の移動と屠殺の制限が40戸の2万2千頭の羊については解除された。しかしカンブリア地方では、依然144戸の農家の13万頭の羊については、汚染された羊肉が店に出回らないよう制限が続いている。—（1991年1月10日付け）

○川魚の放射能について（イギリス）

1989年の調査によるとイギリスのカンブリア地方やサウスウエールズなどでは、前年に較べ、かなり放射能の量は下がった。しかし核再処理工場のあるセラフィールドでは、前回の値のわずか半分程度下がっただけだった。ただし魚貝類をもっともよく摂取する人でも、年間限量量の5分の一程度の被曝になるという。

魚のセシウム濃縮程度は全体としては下がったが、ノースウエールズのトロースフィッドでは逆に放射能が増えており、これは前年よりも時間的なずれから潮が遅れて汚染された結果であるという。（1990年10月30日付け）

避難した子供たちは…キューバ報告

八木 啓代

(これは、八木啓代さんが昨年夏、直接キューバを訪ね取材してきた報告です。パソコン通信NIFTY 内「いきいき市民運動フォーラム」より転載)

キューバの首都ハバナから車で約1時間、タララ地区にホセ・マルティ青少年市病院がある。このホセ・マルティ青少年市病院は、ただの病院ではない。このタララ地区の11km²が、学校、療養所、遊施設、海水浴場、文化施設、治療施設、研究所、食堂、コテージ形式の寮を含む、最高1万人が生活可能な「青少年都市」であり、またこの都市そのものが「病院」なのだ。

チェルノブイリの原発事故で送られて来た子供たちは、男688人、女551人、計1159人が来ている。

そしてこの子供たちには、100人から120人につきそれぞれ1人の医師と看護婦が配置され、さらにキューバ滞在中に勉強が遅れないように約10人当たり一人のソ連人教師(ソ連から来ている)と、キューバ人通訳一人がついている。

子供たちの年齢の内訳は、

	(歳) 6未満	6-8	9-10	11-13	14以上	計(%)
ロシア共和国	0	0	6	155	97	258(22.2)
白ロシア共和国	1	5	51	339	147	543(46.8)
ウクライナ共和国	33	45	76	137	67	358(31.0)
計	34	58	133	631	311	1159

そして診断の結果、病院その他への振り分けは次のようになっている。

	他病院転院児	都市病院	入院不要児童(%)
ロシア共和国	7 (3)	84 (33)	167 (65)
白ロシア共和国	25 (5)	316 (58)	282 (37)
ウクライナ共和国	39 (11)	298 (81)	29 (8)
計	71	698	478

この他病院転院児というのは、わかりやすく言うと「極めて重症」と診断された子供すなわち、白血病やその他癌性疾患と考えていい。また都市

病院入院児の内訳は、白血病減少、白血球増加、血小板以上、腹部痛、口内以上、皮膚以上、神経性と見られる各種異常、かいせん、等。合併症もある。

そしてこの結果からウクライナから来ている子供は何と10人に1人以上がかなり危険な状態で、少なくとも入院不要と診断された子供は8%しか満たないことになる。 以上

救援活動収支報告(1990.9.25~1991.1.7)

収入の部	金額	支出の部	金額
前期繰越	710,569	ポスター代, パネル代	92,438
団体カンパ 29 件	1,858,900	ミルク, 菓子, 玩具代	1,407,638
個人カンパ 222 件	2,616,774	広河隆一写真集 5 冊	14,250
その他(街頭募金、バザー		通信費(国内外)	165,051
売上、コンサート売上等)	563,421	コピー、印刷費、事務費	63,309
		荷作り、送料、交通費	127,210
		小計	1,869,896
		次期繰越	3,879,768
	合計 5,749,664	合計	5,749,664

(尚、救援活動開始以来 救援金の合計は、約860万円となりました。)

お知らせ・お願い

- *国際電話などの費用がかさんでいます。運営費のカンパをお願いします。
- *現地のヴィースニク紙翻訳版が完成。販価200円(送料別)。
- *坂東さんの訪問手記が本に! 請う御期待。八月書館よりまもなく発刊。
- *不定期ですが「ポレーシェ」の講読を募ります。年間講読料千円です。
- *連絡先が、前任の戸村から今度は下記の人たちに変わりました。

チェルノブイリ救援・中部(郵便振替口座 名古屋8-108610)

連絡先: 岡部(昼のみ) 豊橋市東新町334 tel.0532-52-2380

長谷川(夜のみ) 名古屋市名東区赤松台502 tel.052-773-0271

山盛 名古屋市緑区作の山町230 メゾン作の山207号

tel.052-892-9706